

スポーツリハビリテーションⅡ		実習	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371304

1. 授業のねらい・概要

スポーツリハビリテーションⅡでは、スポーツ傷害Ⅱで学んだ知識を実技で実践する。各傷害の評価法あるいは固定法、リハビリテーションなどの目的や意義を理解し実践することにより、座学で学んだ知識を深め、技術の習得を目指す。

2. 授業の進め方

グループ班を形成し、学生各々が術者や助手、患者などの役割となり、各外傷の評価法および治療法を実践し、授業を進行する。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 肩関節周囲の解剖と触診 3. 腱板断裂・上腕二頭筋腱損傷の評価法と治療法 4. スポーツ障害①（ベネット損傷，SLAP 損傷，インピンジメント症候群）の評価法，治療法 5. スポーツ障害②（リトルリーガー肩），その他の疾患（動揺性肩関節，肩関節周囲炎）の評価法と治療法 6. 肘関節周囲の解剖と触診 7. 肘関節内側側副靭帯損傷の評価法と治療法，肘関節後外側回旋不安定症の評価法 8. 野球肘の評価法	9. 野球肘の治療法 10. 上腕骨外側上顆炎・内側上顆炎の評価法と治療法 11. 手関節周囲の解剖と触診 12. TFCC 損傷，手根不安定症，ド・ケルバン病の評価法と治療法 13. ステナール損傷の評価法，その他の靭帯損傷とロックリングフィンガーの評価法と治療法 14. 絞扼性神経障害（肩甲部，上肢部）の評価法と治療法 15. まとめ
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

定期試験の結果（100％）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②必要に応じて資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①私語および携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス，指輪，ネックレス）ははずすこと。
- ④事前に実技で必要とするものを連絡するので必ず持参すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。